



モ〜モ〜くらぶ



RS ウイルス感染症について

先月から周南地区で流行し始めました。

症状は、大人や年長児であれば発熱、鼻水、咳という普通のかぜで終わりますが、2歳未満(特に1歳未満)のお子さんがかかると水様の鼻水に始まり、細気管支(気管支の奥)の炎症を起こし、ぜいぜいがひどくなったり、6ヶ月未満のお子さんだと無呼吸を起こしたりして入院が必要になることもあります。生まれたての赤ちゃんでも感染することがあり、まれに命を落とすぐらい重症になることもあります。乳幼児突然死症候群の原因の一つではないかとも言われています。

診断は15分ぐらいで診断できるキットがあります。ただ、1歳未満の乳児、入院が必要な児にしか保険は使えません。3歳以上になれば普通のかぜで終わりますし特効薬はありません(出席停止の病気ではありません)のであえて検査をする必要はないと思っています。

このウイルスに対しては気管支を広げる薬や痰を切れやすくする薬などを使った対症療法しかありません。ステロイド剤を早期に使うと入院しなくてすむ確率が上昇するという報告があり、当院でも1歳未満の子では早めに使ったりしています。

低出生体重児で生まれた子や先天的に肺や心臓に病気がある子は特に症状がひどくなることが多いため、このウイルスの感染を防ぐ注射(商品名“シナジス”ワクチンではなくガンマグロブリンという抗体です)を予防的に打つこともあります。当院でも接種することは可能です。ただし、接種できるのは未熟児で生まれた児、肺や心臓に病気がある子のみです。

……感染症情報(11月1日現在)……

- ★先月からRSウイルス感染症が流行しています
- ★ヒトメタニューモウイルス感染症、手足口病などの夏かぜも少しいます。
- ★インフルエンザは当院ではまだ見ていません。

子どもの服の調節

急に寒くなったり、日中の寒暖差が激しいと、衣類の調節に困ることがあります。

地域や活動量にもよりますが、子どもは大人よりも平熱が少し高いため、基本的には大人よりも1枚少なめを目安にするとよいでしょう。

乳幼児は自分で「暑い」「寒い」とは言えないので、観察しながらこまめに衣類を調節しましょう。

子どもの首の後ろや背中に手を入れ、汗ばんでいたら着せすぎです。手足が冷えているときは背中やお腹が温かければ心配しなくてもいいでしょう。

(こまさん)

もうぬげない

作:ヨシタケシンスケ



もうぬげない
ヨシタケシンスケ

ぼくの服がぬげなくなってどのくらいたったかしら。お母さんが急いでぬがそうとするからいけないんだ。もうぼくはこのままでいよう。でも、このまま大人になって、本当に大丈夫？

ぼくの真剣に悩む姿がたくましく、かわいらしく、楽しい絵本です。
(ぴーなっつ)

モーモーハウスだより

イチョウ並木がきれいに色付いてきましたね。

モーモーでは入室した子どもたちと「大きくなったら何になりたいかな？」とよく話をします。なりたいたいのものが次々と思ひ浮かび、夢はどんどん膨らんでいきます。

家族をはじめ社会の様々な仕事に携わる人々へのあこがれと感謝の気持ちを大切に、子どもたちの夢がますます広がるようにと願っています。

11/12(土) 全国学校医大会のため休診